

JA全農ウィークリー

6
7
面

全国で導入進む「はかる蔵」「うご蔵」
正確なモニタリングと手軽な環境制御機器（耕種資材部）

2面

西豪州CBH農協会長・CEOが訪日
国際農協間取引を通じた相互連携関係を確認（畜産生産部）



左からベン・マクマナラ氏(CBH農協CEO)、菅野幸雄会長、サイモン・ステッド氏(CBH農協会長)、野口栄理事長(2面)



勢ぞろいしたパワーリフティング日本ジュニア選手団(3面)



ハウスで管理作業をするリバティー・ポートジャパン(株)の角裕二社長(6-7面)

- ## 2 関西地区の商談会で国産農畜産物をPR(営業開発部)

- ### 3 「ニッポンの食」でパワーリフティングを 応援(京都府本部)

第23回ひろしまクロスカントリー大会に
協賛(広島県本部)

秋田ノーザンブレッツRFCを
地元の食で応援(秋田県本部)

- #### 4 東京ガールズコレクションで 国産農畜産物の魅力発信(酪農部)

みのりみのるマルシェ
「秋田おぼこの実り」(フードマーケット事業部)

SNSを活用して資材紹介(富山県本部)

- ## 5 JAズームイン(JAこうか・滋賀)

- ## 8 「工藤阿須加が行く 農業始めちゃいました」 スタート(広報・調査部)

「大将季&紅甘夏グミ」「王林グミ」新発売
(営業開発部)

JAタウンショップ紹介

JA全農京都

**Web版JA全農ウィークリーは
こちらから**



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

Web
限定

**窓口機能強化研修会・農家対応力強化
研修会を実施(神奈川県本部)**

資生堂パーラー銀座本店レストランに 岐阜県産食材が集結(岐阜県本部)

「静岡県産クラウンメロンサワー」
リニューアル発売(営業開発部)

News!



西豪州CBH農協会長・CEOが訪日

国際農協間取引を通じた相互連携関係を確認

畜産生産部



左からベン・マクマナラ氏（CBH農協CEO）、菅野幸雄会長、サイモン・ステッド氏（CBH農協会長）、野口栄理事長

オーストラリア最大の穀物取扱量を誇るCBH農協（西オーストラリア）のサイモン・ステッド会長とベン・マクマナラCEOが9月13日、JAビルを来訪されました。CBH農協は100周年、全農は50周年の節目を迎えたことを互いに祝いました。

世界的な人口増加を背景に飼料原料の需要が増加傾向に推移する中、輸入国間の購買競争は激しさを増す状況となっており、飼料原料の安定確保のための調達先との連携強化は今後さらに重要となっていくことが想定されます。

CBH農協はオーストラリアの穀物主要産地である

西オーストラリアで100基を超える集荷施設と4基の輸出施設を運営しており、西オーストラリア産穀物の輸出シェアは圧倒的首位となっています。CBH農協と全農は50年を超える長年の取引実績がありますが、近年では特に肉牛用飼料の製造に欠かせない飼料用大麦について、全農グループの主要調達先となっています。

お互いに節目の年を迎えたことにあたり、全農からは菅野幸雄会長が代表し、CBH会長との記念品の交換を行いました。また、双方における最近の事業環境や将来的な事業戦略について協議し、今後はさらに連携を深めながら、相互の農協組織発展を目指していくことを確認しました。

News!



関西地区の商談会で国産農畜産物をPR

フードストアソリューションズフェアに全農グループ出展

営業開発部



来場者でにぎわう全農グループブース

この商談会は関西地区の大手量販店・生協が副主催となっており、全国各地の400社を超える食品企業がバイヤーにPRしました。会場には前年の約1.5倍の1万4000人を超えるバイヤーが来場しました。

全農グループでは直販7社（※）が「産地の魅力新発見」を共通テーマに、関西地区の営業強化を図ろうと、各産地の特色ある商品や、農協シリーズ、ニッポンエールの商品などを展示しました。

ブースでは実際の売り場を想定して陳列し、試食も提供しました。「豚ロースのご当地味噌漬けシリーズ」や京都の牛乳、農協ごはん、ニッポンエール煮卵、グミなど、多くの商品が来場者から注目を集めていました。

商談会に出展した結果、約300人の来場者と名刺を交換し、今後、商談依頼をいただいた取引先へ営業を展開していきます。

※直販7社：全農、全農食品、全農パルライス、JA全農青果センター、JA全農たまご、JA全農ミートフーズ、全農チキンフーズ、協同乳業



「ニッポンの食」でパワーリフティングを応援

世界大会の日本ジュニア選手団をサポート

京都府本部



勢ぞろいしたパワーリフティング日本ジュニア選手団

日本代表の野村優選手は、今大会で一般アジア記録を15kg上回る445kg挙げ総合4位に、デッドリフト種目では200kgを挙上し種目別銅メダルを獲得しています。

トルコ・イスタンブールで8月27日～9月4日、「世界クラシック・エキップパワーリフティング選手権大会(男女サブジュニア・ジュニア)」が開催されました。今大会に出場した日本代表選手の皆さんへ、京都府産干し芋、グリーンティ、全農のインスタントご飯、みそ汁やニッポンエールグミを供給し、現地での食事・エネルギー補給をサポートしました。

京都府本部は、パワーリフティング世界選手権に出場する選手の皆さんに食料を提供し、「ニッポンの食」で海外遠征をサポートしました。



第23回ひろしまクロスカントリー大会に協賛

ゴールしたランナー全員に「藻塩はっさく水」を提供

広島県本部



ゴール後「藻塩はっさく水」を受け取るランナー

広島県本部は、スポーツを頑張る人たちを「ひろしまの食」を通じてサポートしていきます。

大会は、自然豊かな道後山高原を駆け抜ける大会で、小学生が走る1kmから、トップアスリートが走る8kmまでさまざまなランナーが参加。今年は新型コロナウイルスの影響で規模を縮小し、2019年以来3年ぶりに開催され、631人が参加しました。

メインスポンサーとなっている広島県本部は、ゴール後、ランナー全員に「藻塩はっさく水」を提供しました。「藻塩はっさく水」は、広島県産のハッサクと「海人の藻塩」を使用し、飲みやすく仕上げた飲料で、作業や運動後の水分・塩分補給にお薦めです。

広島県本部は、第23回ひろしまクロスカントリー大会に協賛しました。8月20日に庄原市の道後山高原クロカンパークで行われ、参加したランナーに「藻塩はっさく水」を提供しました。



秋田ノーザンブレッツRFCを地元の食で応援

「あきたこまち」300kgと牛乳・乳製品50セットを贈呈

秋田県本部



秋田県本部は9月10日、ジャパンラグビートップブリーストリーグAグループの開幕を控える「秋田ノーザンブレッツRFC」を地元秋田の食で応援しようと、秋田県産「あきたこまち」300kgと「牛乳・乳製品」50セットを贈呈しました。

今年で2回目となる贈呈式で、秋田県本部米穀部の吉田保部長は「秋田の誇るお米と牛乳・乳製品で力をつけ、さらなる高みを目指してほしい」と激励し、同クラブ共同主将の小山樹基選手にレプリカの米俵を手渡ししました。また、園芸畜産部の木元健史次長が共同主将の齋藤健也選手へ目録として牛乳瓶を模したクッションを手渡したほか、ミスあきたこまちが古屋亮太ゼネラルマネージャーへ花束を贈りました。

齋藤選手は「秋田の食に支えられて、ここまで頑張ってきたことができた。Aグループでも活躍する姿を見せられるよう頑張りたい」と意気込みを話しました。

今年で2回目となる贈呈式で、秋田県本部米穀部の吉田保部長は「秋田の誇るお米と牛乳・乳製品で力をつけ、さらなる高みを目指してほしい」と激励し、同クラブ共同主将の小山樹基選手にレプリカの米俵を手渡ししました。また、園芸畜産部の木元健史次長が共同主将の齋藤健也選手へ目録として牛乳瓶を模したクッションを手渡したほか、ミスあきたこまちが古屋亮太ゼネラルマネージャーへ花束を贈りました。

齋藤選手は「秋田の食に支えられて、ここまで頑張ってきたことができた。Aグループでも活躍する姿を見せられるよう頑張りたい」と意気込みを話しました。

News!



東京ガールズコレクションで国産農畜産物の魅力発信

ケータリングエリアで「農協牛乳」フルーツラテ配布

酪農部



自由にカスタマイズできる「フルーツラテ」

昨今、若者の牛乳離れが懸念されていることに加え、コロナ禍の影響で需要と供給のバランスが崩れ、乳製品の過剰在庫問題が発生しています。全農は、若年層マーケティングのノウハウをもつW TOKYOと連携し、若い世代への国産農畜産物の魅力発信に取り組みました。さいたまスーパーアリーナで9月3日に開かれた東京ガールズコレクションのケータリングエリアで「coo・a fruits」の商品である牛乳と果実を使った「フルーツラテ」を配布。ラテには子会社・協同乳業の「農協牛乳」を原料として提供し、出演者の方に会場やSNSでたくさんPRしていただきました。

全農は、東京ガールズコレクションを主催する株式会社W TOKYOと、共同でスイーツブランド「coo・a fruits（カラフル）」を展開する株式会社デックキャピタルと連携し、若い世代への国産農畜産物の魅力発信に取り組みしました。

News!



みのりみのるマルシェ「秋田おばこの実り」

AGRIFUTURE「JA秋田おばこ」特集に合わせて銀座三越で開催

フードマーケット事業部



みのりみのるマルシェ「秋田おばこの実り」で新鮮野菜などを販売

当日は多くのお客さまが来店され、「秋田はおいしいものが多いですよね」ととても新鮮な野菜が買えて満足です。「秋田出身なのでこの雰囲気がかしい」など、温かい声を多数いただきました。

AGRIFUTUREはこちら



今回のマルシェでは、この時期が旬のリンゴや、エダマメ・ネギ・アスパラガスなどの新鮮野菜、お米「あきたこまち」をはじめ、秋田名物「いぶりがっこ」など、産地を代表する農産物などを取りそろえ販売しました。

全農は9月17日、AGRIFUTURE Vol.98「JA秋田おばこ（秋田県）」の発行に合わせて、銀座三越9階でみのりみのるマルシェ「秋田おばこの実り」を開催しました。

News!



SNSを活用して資材紹介

JA若手職員のスキルアップにも貢献

富山県本部



動画はJAとなみ野YouTubeチャンネルで公開中

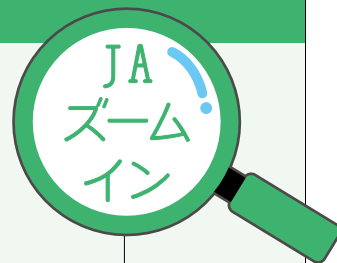
また、動画制作を通して商品知識の理解も深まり、経験の浅い営農指導員のスキルアップにもつながりました。

JAとなみ野YouTubeチャンネルはこちら



系統独自品目である「カッパ天国エース」や、除草作業の省力化提案として、茎葉処理除草剤「ザクサ液剤」と土壌処理剤「ダイロンゾル」の混用について、作業手順や散布方法をメーカー担当者とともに詳しく紹介しています。動画を見た生産者からは「特徴が分かりやすい」と好評です。

富山県本部はJAとなみ野と協力し、生産者に系統資材の理解を深めてもらうため、YouTube動画を作成しました。



「近江の茶」の認知と消費拡大

ブランド力向上に産地一丸

JAこうかは滋賀県の南部に位置し、甲賀市・湖南市の2市を活動区域としています。中でも甲賀市は県内最大の茶産地で「近江の茶」の主産地となっています。

「近江の茶」の起源をたどれば、平安初期の805年、伝教大師最澄が唐の国より茶の種子を持ち帰り、比叡山山麓にまいたことが始まりとされており、現在も比叡山の麓にある日吉大社のほとりには、その時のものと伝わる茶園があり、日本

茶業発祥の地ともいわれています。

**茶緊急対策事業を活用し
全農県本部と試供品配布**

「近江の茶」は、新型コロナウイルス感染拡大などにより、出荷量の減少や価格の下落などの影響を受けましたが、「近江の茶」の消費



「近江の茶」のリーフ茶とティーバッグ茶、カートカン



第72回全国植樹祭しが2022会場での販売・PR風景

拡大に取り組むため、全農滋賀県本部が事業主体となり国の茶緊急対策事業を活用。JAこうかが「近江の茶」の試供品を作成し滋賀県本部とともに全国で配布し、「近江の茶」の認知と消費拡大を目指し、ブランド力の向上に努めました。

JAこうか (滋賀県)



概要

(2022年3月31日現在)

正組合員数	5822人
准組合員数	1万1218人
職員数	330人
販売品取扱高	33億7千万円
購買品取扱高	13億5千万円
貯金残高	1817億4千万円
長期共済保有高	4486億9千万円
主な農畜産物	米穀、野菜、茶

JAは、試供品の配布をきっかけに、「近江の茶」の良さと産地のPRにつなげるため「近江の茶」リーフ茶と「近江の茶」ティーバッグ茶の新品を開発。茶葉には「近江の茶」の二大ブランドである「土山茶」と「朝宮茶」をブレンド。パッケージは、同市が「忍者の里」として有名であることから、茶畑と忍者をモチーフにした鮮やかなデザインとし、幅広い年齢に受け入れられることを目指した新しいブランドイメージに仕上げました。

全国植樹祭を契機に エコ容器での販売も

さらに、「第72回全国植樹祭しが2022」開催を機

に、国連の持続可能な開発目標(SDGs)につながる環境に優しい紙製飲料容器を使用した「近江の茶」カートカンを開発、販売を開始しました。カートカンは、間伐材を含む国産材を30%以上使用したエコ容器。持続可能な社会の発展に向け、カートカンを通じてSDGsへの取り組みを開始しました。また、地元小学校や県内の子ども食堂に「近江の茶」カートカンを寄贈。子どもたちにも特産の近江の茶に親しんでもらう取り組みを行っています。

JAこうかでは、「近江の茶」の販売を通じさらなるブランド価値の向上と生産者の生産意欲・所得向上につなげていきます。

正確なモニタリングと手軽な環境制御機器

全国で導入進む「はかる蔵」「うづ蔵」

リバティー・ポートジャパン(株)



「はかる蔵」と土壌水分計

施設園芸で環境制御を考える際、まずはハウス内がどのような環境にあるのかを把握する必要があります。そのために必要な資材として、全農では正確性の高いデータを手の届きやすい価格で測定可能な環境モニタリング装置「はかる蔵」を紹介しています。この「はかる蔵」と、複合環境制御機器の「うづ蔵」はリバティー・ポートジャパン(株)が製造し、九州・東海地区を中心に現在全国で導入が進んでいます。

【耕種資材部】

簡単設置で正確なモニタリング「はかる蔵」

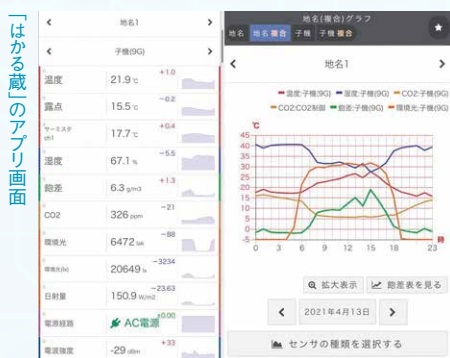
「はかる蔵」はハウス内の環境を簡単に測定することができ、機器で、親機、子機からなります。観測地点が増えても子機の追加だけで対応可能で、追加で、安価に増設可能です。設置に特別な工事は必要なく、各機器に電源が確保できれば即使用できます。

子機は気温・湿度・地温・日

照・二酸化炭素(CO₂)の測定が可能です。「はかる蔵」のCO₂センサーの校正はセンサーを

取り外してハウス外に一定時間置くだけで、非常に容易に行えます。親機・子機共に複数の特許を取得しており、堅牢性・精度面などで他社との差別化を図っています。オプションでMETER(旧DECAGON)社のセンサーを採用した土壌EC(電気伝導度)子機や、土壌pF(土壌水分)、外気温などをラインアップし、現場のニーズに応じた機能を追加することが可能です。

観測データの確認はパソコンだけでなく、専用のアプリをダウンロードしてスマートフォンでも確認することが可能です。また日誌機能もあり、灌水・施肥・薬散・出荷実績・生育調査(写真・画像含む)などの記録データを蓄積するほか、過去の作業



記録の確認や、従業員とのスケジュール共有が可能です。加えて日誌で蓄積したデータは農業生産工程管理（GAP）認証向けの機能として活用できます。

手軽な複合環境制御

「うご蔵」

「うご蔵」は「はかる蔵」に接続して使用することが可能な手軽な複合環境制御機器です。「は

かる蔵」で計測したデータを基に、基本プランで最大12段階、高性能プランで最大48段階の自動制御が可能です。自動制御する設定値はアプリを通じてスマートフォンで設定できるほか、遠隔操作も可能になっています。現在、「うご蔵」では暖房機、光合成促進機、灌水装置、ミスト、循環扇などの制御に対応してい



「うご蔵」本体

ます。

近年、環境モニタリング機器や環境制御機器への関心が高まっています。興味はあるものの設置や使い方が難しそうということで敬遠したり、イニシャルコストが高いといった理由でまだ導入していない方には「ぜひ一度、はかる蔵、うご蔵をご検討ください」と薦めています。

篤農家の管理基準を見える化して底上げ

「はかる蔵」の主な活用方法として取り組まれているのが、トマトやイチゴなどを栽培する際にベテラン生産者と若手生産者で導入してもらい、環境データや土壌のデータを共有できるようにして栽培を行うというものです。データを見える化することで、ベテラン生産者の環境データを目安として、若手生産者がその値に近づけるよう管理し、土壌水分もpFを測ることでデータを活用しての管理が可能となりました。その結果、収量の底上げを達成するということが各地で見られています。

生産者の目線で作り 使いやすい機器を

リバイティブポートジャパン(株) 角裕二 社長

「はかる蔵」開発の きっかけは？

私が就農したのは2008年になります。新規就農で、大分県でイチゴを栽培しています。現在も圃場の経営をしな



ハウスで管理作業をする角社長

がら「はかる蔵」「うご蔵」の開発、販売を進めています。当時から環境モニタリング装置の存在は知っていましたが、価格が高く、パソコンを圃場に設置しておく必要があるなど導入のハードルは低くはありませんでした。比較的早い段階で収量を上げることができるようになり、後輩に指導することが増えましたが、感覚で伝えるのは難しく、これを数字で伝えられればお互いがスムーズに情報を認識できるなと思いました。環境モニタリングに必要な品質と機能、それを導入しやすい価格帯で作って生産者のレベルを底上げしたい。これが開発のきっかけになります。

リバイティブポート ジャパンの製品の強みは？

特に湿度センサーの正確性には自信があります。環境制御と言われると飽差管理と言う言葉を多く聞くようになります。



角裕二 社長

したが、そのためには正確な湿度を継続して測定する必要があります。センサー周りの構造を工夫して正確性の高いモニタリングが可能になっています。また、土壌水分計も自社で製造しており、これを使うことで灌水の指標をデータで共有できるようになっているというのも特徴です。

今後の展開を 教えてください

いろいろと考えていることはあるのですが、労務管理ソフトの開発・提供を進めたいと思っています。「はかる蔵」と同じプラットフォームで、生産者の目線で作った使いやすいものを提供して農業の底上げに貢献したいですね。

※「はかる蔵」「うご蔵」の問い合わせは、全農 耕種資材部 園芸資材課（電03-6271-8310）

「工藤阿須加が行く 農業始めちゃいました」 スタート BS朝日新番組 就農をキーワードに農業の現状を発信



全農が提供するBS朝日の新番組「工藤阿須加が行く 農業始めちゃいました」が10月5日から始まりました。2021年から本格的に農業を始めた俳優の工藤阿須加さんが、新規就農者を訪問し農業の魅力を発信します。

【広報・調査部】

この番組は「農業のことをもっと知りたい!」と思っている工藤さんが、農業を始めたことで初めて分かったこと、味わった苦労・得た喜びなどを、同年代の就農者を訪ね、その思いに迫っていきます。これまでに特別番組として2回放送され、好評につきレギュラー

化が決定。工藤さん自身にとって初冠となる記念すべき番組が10月よりスタートしました。

俳優業同様、農業にも力を入れる工藤さんは新番組について、「改めて冠番組がレギュラー化されるのはプレッシャーですが、農家の現状や思いをなるべくストレートに伝えられるよう、僕自身も頑張っていきます!」と意気込みを語ってくれました。

農業を取り巻く現状を「就農」というキーワードをもとに発信していく新番組をぜひご視聴ください。



新番組「工藤阿須加が行く 農業始めちゃいました」
10月5日(水)スタート
毎週水曜 10:00~10:30

番組の詳細は
こちらから



「大将季&紅甘夏グミ」「王林グミ」新発売

鹿児島産かんきつ・青森産リンゴでニッポンエールグミ

全農はJA鹿児島県経済連と連携してニッポンエールグミ「鹿児島県産大将季&紅甘夏グミ」、青森県本部と連携して「青森県産王林グミ」を商品化しました。9月26日から全国の量販店などで発売しています。ニッポンエールグミは32都道府県産の果実で42種類となりました。

【営業開発部】

「鹿児島県産大将季&紅甘夏グミ」は、JA鹿児島県いずみが発給した「大将季」「紅甘夏」を使用し、ニッポンエー

ルでは鹿児島県産果実を使用した初めてのグミとなります。「青森県産王林グミ」は、JAつがる弘前などがリンゴ「王林」を供給し、青森県産果実を使用したニッポンエールグミでは同様に初となります。

全農は、日本の素晴らしい果実を、若い世代にも手軽に広く知ってもらうために、今後も各産地、JAと連携して、47都道府県産の特色ある果実を使用したグミシリーズの発売を計画していきます。



「鹿児島県産大将季
&紅甘夏グミ」と
「青森県産王林グミ」



JA全農京都

「紫ずきん」は京都丹波黒大豆をエダマメとして9月から食べられるよう改良したもので、京のブランド産品として認証されています。豆の薄皮と粒がうっすらと紫色になり、頭巾のような形をしていることから名付けられました。

一般的なエダマメや黒豆と比べてさやと粒が大きい「紫ずきん」は、こくのあるうまみともちもち食感を楽しむことができます。今晚のおかずの一品に、お酒のおつまみとして、ぜひ一度ご賞味ください。



紫ずきん 秀品 1kg (200g×5袋)
……3500円(税込み)



ご注文は
こちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは shop@ja-town1.com

